

情報交差点・心と心の交わり

あじまへ

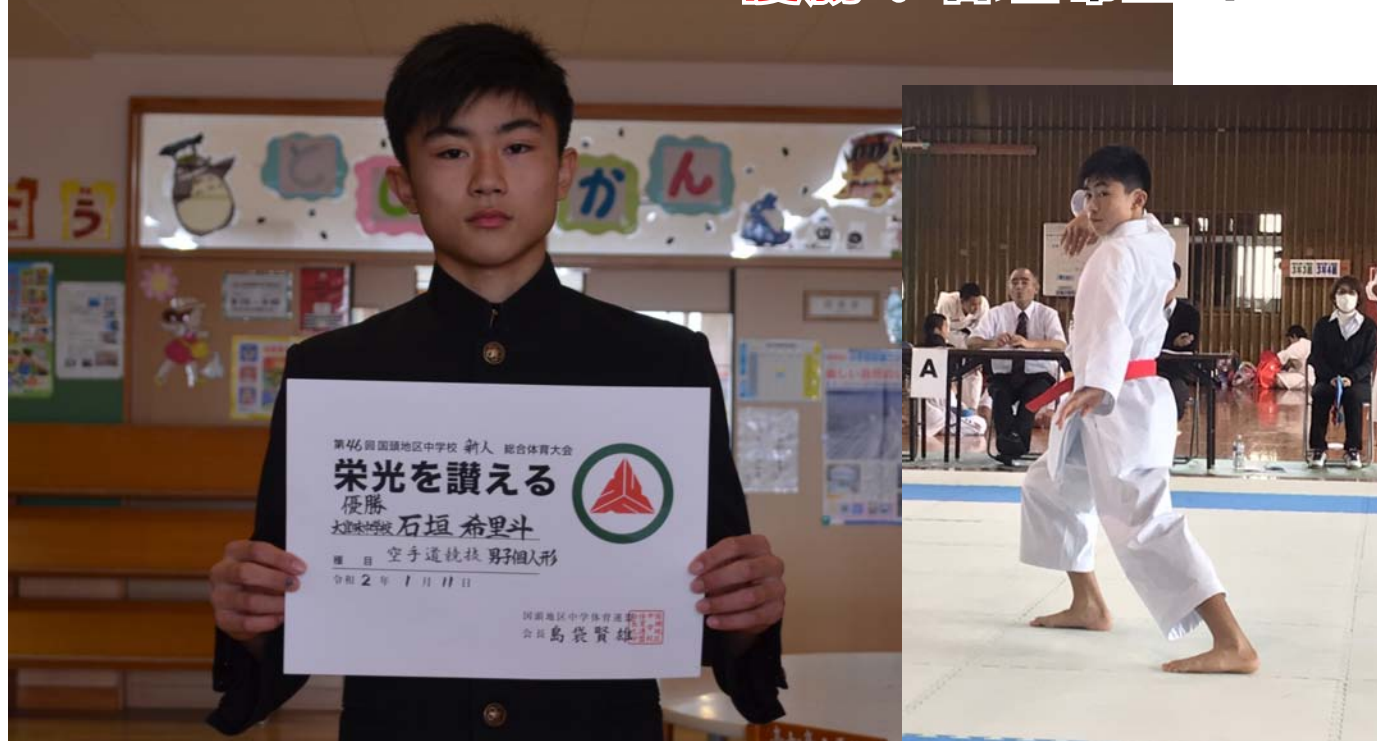
大宜味村教育委員会

電話 44-3006

FAX 44-3020

祝

第20回国頭地区新人空手道競技大会

男子個人形競技 **優勝!** 石垣希里斗くん

1月11日（土）に名護市立大宮中学校体育館で開催された令和元年度第20回国頭地区新人空手道競技大会に大宜味中学校2年の石垣希里斗くんが男子個人組み手・形に出場し、形競技で見事優勝を収めました。形競技は決まった形を2名で演武し、技のキレやパワー、スピード、決め、気合いなどで相手との上手さを競い合うもの。1つ1つの形の意味を理解し実践的にしているか、集中力はあるかなどを周りにいる審判員が判断しフラッグ方式で判定します。

劉衛流の空手道を週5日、毎回2～4時間、名護市の羽地小や伊差川公民館で練習を行っている希里斗くんは今回の大会について「最初から勝つと決めて挑んでいたのが、優勝できてホッとした。審判員の中に同じ流派の人がいたが、自分に旗を上げていなかった。その審判員は対戦相手の形の方が上手いと評価していたと聞いたので、これを課題にしてもっときれいな形ができるように頑張りたい」と話してくれました。

次は2月8日、9日に空手会館で行われる沖縄劉衛流空手道大会に出場するそうです。この大会は幼稚園児からマスターまでが参加するもので、同じ流派の選手たちで競われます。

希里斗くんは「形も組手もベスト8と狙って頑張りたい」と決意を語ってくれました。次の大会も頑張ってください!!

大きなホールに響く歌声…

第39回新春前沖縄学級合唱発表会

1月13日（月）、沖縄市民会館において第39回全沖縄新春学級合唱発表会が開催され、大宜味中学校の3年生が学校を代表して出場しました。

午前の部に出場した26校のうち最初から4番目の発表、大きなホールにたくさんの観客と緊張も高まる中でしたが、一人一人がしっかりと声を出し、少人数ながらも心に響く合唱を見せてくれました。



発表会後は焼肉きんぐで慰労会もしました。これは昨年の7月に実施したシークワサー酢 SKS+S の実演販売で売り上げたお金で開かれたもの。自分たちで稼いだお金で食べる焼肉を格別だったと思います。残り少ない中学校生活に新たな思い出を作ることができた1日となりました。

ラジオでも大活躍！ アイモコ音楽農園でシークワサー酢 SKS+S 宣伝

1月18日（土）、大宜味村産業まつり内で行われたハルサーミュージシャンアイモコの音楽農園（ラジオ沖縄 毎週土曜 11:00～13:15 放送）大宜味村産業まつりスペシャルの公開生放送に大宜味中学校3年の平良琉翔くん、金城勇斗くんが出演し、シークワサー酢 SKS+S と1年生が開発している「いぎみだし」の紹介をしました。

シークワサー酢 SKS+S は一昨年前に発売してから売り上げが4万本を達成しています。

公開放送ではモコさんからシークワサー酢開発の経緯や作る時に大変だったことなどを聞かれ、琉翔くんと勇斗くんが「自分たちが住んでいる大宜味村の特産物であるシークワサー酢を活用して何かできないかと考え、商品開発をした」、「パッケージやネーミングを考えるのに苦労した」と緊張しながらもハキハキと丁寧に答えていました。

おすすめの飲み方について勇斗くんはスタンダードな水で割った飲み方を、琉翔くんは炭酸で割るとおいしいと紹介しました。また、現在1年生が開発している「いぎみだし」についても話し、自分たちが始めた商品開発が後輩たちにも引き継がれていて3月中に完成し、販売することを伝えました。

これまでに4万本以上売り上げたシークワサー酢 SKS+S。売り上げの一部（1本につき15円）は中学生に還元されることになっています。今年はこの還元金を首里城の復旧に役立てるために寄付する予定です。

短い出演時間でしたが、会場のお客さんだけでなくたくさん人たちに思いを伝えることができたラジオの時間となりました。



入念な打ち合わせ

令和2年 大宜味村成人式



↑みんな立派に成長しました!!

1月4日（土）、大宜味村農村改善センターにおいて、令和2年大宜味村成人式が行われました。今年の成人者は28名、そのうち21名が式典に出席しました。

成人者は着物、袴、スーツなどそれぞれの晴れ着を身にまとい、家族や先生、地元の先輩などお祝いに駆けつけてくれた来場者の方々へ立派に成長した姿を披露しました。

新成人を代表し金城成人さんは「中学生の頃はたくさん迷惑をかけてしまったけど、そんな自分たちを見捨てることなく、たくさんの愛情を注いでくれた先生方のおかげもあって、今こうして二十歳を迎えることができました。私たちはこれから成人としての自覚を常に忘れず、責任ある行動と人を思いやる優しい心を持ち社会やこの大宜味村の皆さまに今まで受けてきた恩をお返しし、貢献したいと思います」とあいさつをしました。

式典後には青年会による激励交歓会が行われ、久々に再会した友達や先生と語り合い楽しい時間を過ごしました。



成人代表あいさつ：金城成人さん



立派になりました!!



余興も盛り上がりました!



新緑の塩屋湾を走ろう！

第42回 塩屋湾一周トリムマラソン大会

今年より5kmコースが復活しました。

2020年4月19日（日）開催

申込期間 令和2年2月14日（金）～3月13日（金）当日消印有効



お問い合わせ 塩屋湾一周トリムマラソン大会事務局 教育委員会内 ☎0980-44-3006 (担当：前田)

- 9km (塩屋湾一周コース) 高校生以上/制限時間=1時間30分
5km (湾内折返し 田港コース) 小学生以上/制限時間=1時間15分
3km (湾内折返し 屋古コース) 幼児(1歳以上)/制限時間=1時間

100万回生きたねこが教えてくれたこと 劇団たんぽぽ演劇鑑賞会

1月14日（火）、大宜味小中学校体育館において保育所、幼稚園、小学校を対象とした劇団たんぽぽによる演劇鑑賞会が行われました。
今回のお話は「100万回生きたねこ」。絵本でもお馴染みで誰もが聞いたことがあるお話です。ある時は一国の王のねこ、ある時は船乗りのねこ、他にも手品使いや泥棒、ひとりぼっちのおばあさん、小さな女の子のねこなど100万回生きて100万回死んだねこ。くるくると変わる展開や演者に魅せられながらも考えさせられる内容の舞台でした。



公演を終え、6年生の幸山太輝くんは「本で読んだことはあるけれど、演技で見るのは初めて。声の出し方や動きの大きさなどすごいと思いました。来月はきらめき発表会、とても勉強になりました。ありがとうございます」とお礼の言葉を述べ、劇団たんぽぽの演者のみなさんは「毎回みんなに会えることが楽しみ。発表会も頑張ってる」とエールを送りました。



令和元年度大宜味村育英会入学準備金貸付募集についてお知らせ

大宜味村育英会では、村内に住所を有し、大学、短大、専門学校（高等専門学校含む）等に進学予定の者で、経済的な理由により修学困難な学生を対象に、令和元年度入学準備金貸付奨学生を次のとおり募集します。

- 1 採用人員 3人程度
2 貸付金額 300,000円（県内・県外同額）
3 応募資格 (1) 大宜味村に住所を有し、現在大学、短大、専門学校等に進学予定の者で、経済的な理由で修学困難な者。
(2) 学業優秀、志操堅固であること。
(3) 家計上学費の支出が困難であること。
4 提出書類 ① 大宜味村育英資金入学準備金申請書
② 合格証明書
③ 在学証明書（進学後に提出。令和2年4月1日以降に発行されたもの）
④ 住民票謄本
⑤ 所得証明書（同一生計者全員分）
⑥ その他必要な書類（村育英会にお問い合わせ下さい。）
5 受付期間 令和2年2月3日（月）～2月28日（金）午前8時30分～午後5時15分（土、日曜は除く）
6 提出先 大宜味村育英会（大宜味村教育委員会内） ☎905-1306 大宜味村字大宜味1番地
7 奨学生決定通知

貸与者の選考は、願書等の書類に基づき、村育英会役員会の審議を経て決定します。
※貸付、返還についての詳細は大宜味村教育委員会までお問い合わせください。☎098044-3006

図書室情報 No.6 2020年（令和2年）2月

大宜味村図書室（旧大宜味小学校2F：村史編纂係内） 大宜味村字大宜味1番地 0980-44-3009

- 利用状況累計
○登録者数...44人
○来室者数...254人
○貸出冊数...369冊
○現在の蔵書数...4097冊
1月の統計
○来室者数...40人
○貸出冊数...75冊

新本紹介 ※ 2月下旬入荷予定



※県立図書館の図書の貸し出しは1月31日まで。（県立図書館の本の返却期限は2月14日）

2月図書室カレンダー 閉室日:
Table with columns for days of the week (日, 月, 火, 水, 木, 金, 土) and dates (1-29).

大宜味村の間切・村図の紹介 10

砂が寄り上げてできた塩屋

『塩屋誌』には塩屋の成り立ちが次のように記されている。

砂嘴状の塩屋 ハーミンゾウと宮城島の間は大保川の奔流で外海の兼久浜から寄せ打つ波がハーミンゾウを環り、一方大保川の流れが寄り合い、永い時を経て積もり積もった土砂が砂嘴状の広い寄り上げ地（ユアギマク）、塩田となり人が住み塩屋集落の中心となった。

字塩屋 字塩屋はサーバル（塩屋）、ウッカーバル（大川）、ハニクバル（兼久）の三つのバルが合併してサーになった。普通に考えると、飲料水のあるウッカーから人が住み始めたと思われる。だが、当時のウッカーの地形は、山が湾に入り込み深い淵になって人の住む間がなかったと考えられる。一方、サーは塩田があって、製塩のために一時もそこを離れられず不自由を凌いでウッカーから飲料水や生活用水を得ていたのではないか。ハニクはハニク地土地の成り立ちにしたがって徐々に人が住むようになったのであろう。三つのバルが一つになるには、人が住みつく順序、行政文化、生産物商取引の中心となるところに統一されるのが自然の習わしであり、三つのバルが一つの共同体となってサーと呼ばれるようになった。

上記を踏まえて村図を見ると、特徴的な砂嘴状の地形や、大川、兼久には人の関わりを示す数字や色付けが少なく、塩屋のハーミンジョーを中心に区画分けされ密集している様子がよくわかる。



▲國頭郡大宜味間切塩屋村全図 縮尺 6,000 分の 1 約 53.8×77.6 cm
 原名：前川 大川 立榭 塩屋 兼久 安慶名 念蒲 阿根 陣 加次良俣 上原 屋古 ウシチャ
 ・上原、屋古、ウシチャ（押川）はその後、それぞれ分離・独立
 ・地図上に丸で囲まれた数字が見えるが凡例はなし。神門（ハーミンジョー）に㊦があり、「墓」の文字が見える

◀國頭郡大宜味間切塩屋村全図 縮尺 6,000 分の 1 約 78×133 cm ※一部のみ
 原名 同上
 ・凡例があり、宇界、村界、間切界、郡區界、4、6、8、10、11、12、13、14、15、16、17、道路、水部の順で並んでおり、数字はそれぞれ色分けされているがその説明はない
 ・この図では塩屋番所、ハーミンジョーの場所は着色されず、公有地、即ち無税地ではないかと思われる



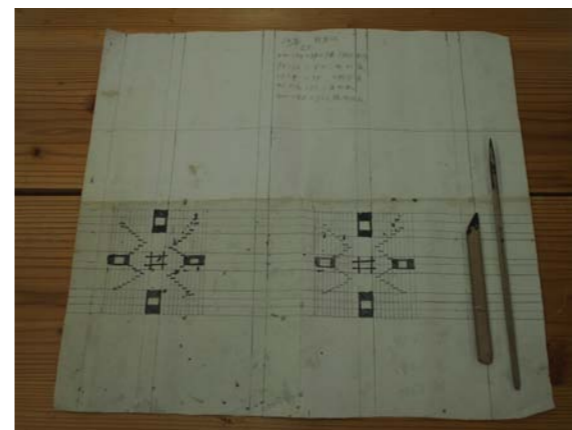
村史編さんだより

第 106 号 2020 年 2 月 1 日 大宜味村村史編纂係 44-8009 Eメール:sonshi@vill.oyaishi.okinawa.jp

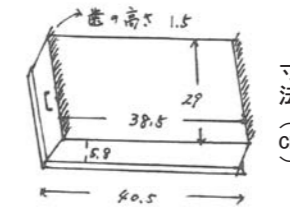
貴重な資料の寄贈ありがとうございます！

上運天綾子さん（那覇在住・饒波出身）より、芭蕉布の製作工程で使われた、緋の模様を付けるときに使用する”**イージ台（絵図台）**”の寄贈がありました。上運天さんは沖縄本島・離島・奄美等の昔の民俗や服飾について長年研究されており、昭和 60 年頃に行なった饒波での聞き取り調査を中心にまとめた『饒波「ヌーハ」の今・昔 聞き取り・調査』（平成 23 年）という報告書を作製され、その内容は『饒波誌』にも収録されています。今は喜如嘉が「芭蕉布の里」として知られておりますが、饒波も戦前～戦後にかけては、多くの女性達が芭蕉布を織っていたそうで、「大宜味村の鞠つき唄」にも、「饒波機（ハタ）むん立ていていとうらしば」と唄われています。

上運天夫妻からは、以前にも年代物の芭蕉や絹の着物、長年に亘って蒐集された貝類標本等多数の寄贈をいただいております、「貴重な資料はぜひ故郷に」という心遣いに、いつも頭の下がる思いです。今回いただいた“イージ台”も、保存状態がよく大変貴重な資料です。



上…絵図と竹へら
下…両端に糸を掛ける櫛状の歯がついている



寸法 (cm)



現物は図書室に展示しているよ♪

イージ台。前方に引出しがあり道具や図面等を入れていた

緋結び（トゥッキリ結び）

緋用の糸は、まっすぐ引っ張り固定する。戦前は庭先の地面に 2 本の木の棒を左右に打ち込み固定していた。緋糸の輪に横棒を入れ、木の棒で支える（後に木の棒から鉄棒に変わったとのこと）。緋模様の染めない部分には、糸に使えない一番外側の芭蕉の皮（ヌーハでは「ウブサガーラ」、「ウバサガラ」という）をよく伸ばし、尺串（寸法）に合わせて切ったものを 1 枚か 2 枚巻き付け、その上をウー（芭蕉）の切れ端で硬く結ぶ（現在はビニールの紐）。弱く結ぶと染料が滲む。また尺串の当て方が一定でないと緋柄が合わなくなる。特に緯緋は熟練を要する。

イージ台は長方形の箱で、引き出しがある。その箱の両端に芭蕉糸を掛ける櫛のような歯が備え付けてある。使い方は台の上に図柄（絵図）を置き、歯に糸を順序よく掛ける。図柄を見ながら竹へらに墨をつけ、図柄に合わせて印を付ける。印を付けた糸を歯からはずし、一本の糸にする。印のついた部分が染めるところ。印がない部分は染めないところでウブサガーラで包み、染料が染みこまないようウーの切れ端でしっかり巻き付ける。イージ台で柄を付けたものは布端が出なく両耳のずれがなかったのが、短時間で計算通りに美しく仕上げるのが出来たという（それ以前は耳端が不揃いであった）。白地の場合：絵図の所は括らず、絵なしの所を括って染める。黒地や紺地の場合：絵図（図柄）の所を括る。

イージ台 所有者 饒波 屋号・金細工小 金城ヨネ（大正 2 年生）※筆者の母親
 金城ヨネが若い頃（昭和 1 3 年頃）、喜如嘉で指導を受けた。指導者は那覇市泊のイーヂ屋の男性・浦崎氏（うろ覚えだが）。受講者は饒波 2 人、金城ヨネ（金細工小）、金城マツ（上名小）、喜如嘉 1 人、田嘉里 1 人、計 4 人。受講後は自宅で織りをした。『饒波「ヌーハ」の今・昔 聞き取り・調査』（平成 23 年）



「しまふとうば」ぬくとう 49



うみがーみー

若水と段々畑

水道が引かれる前の生活用水は、集落背後の山裾から湧き出る泉（カー・ハー）の水や天水、井戸水などを利用していた。

旧正月になると早朝に、いつも使っている山裾のカー（ハー）から若水を汲んできて、一年間の祈りを捧げ、家人は各々が若水を中指で3回ぴっちゃんい（額）につけて、一年間の健康等を祈願したものであるが、近年はどうだろうか。

山裾のカー（ハー）と言えば、現在は各集落にある多くのカーは湧き出る水が無くなり枯れている状況が多く見受けられる。

カーに水が豊富にあった頃の風景は、カーの背後には段々畑が山の天辺まで連なっていて、命をつなぐ食料を生産する重要な場所であった。段々畑はその一枚の面積は小さいけれども数え切れないほど無数にあり、雨が降ると一枚一枚の畑が雨水を受け、ゆっくりと地下に浸透させ、山裾の集落のカーから水が湧き出る小さなダム役割を担っていたように思う。

現在はどうか。かつての段々畑はすっかり草木に覆われ、地面は落ち葉等で覆われて、雨が降ってもその多くは地下に浸透することなく、そのまま下方へ流れて行っているのではないかと思う。その結果として集落内のカーへの水の供給が少なくなり、カーの水が枯れたのではないかと推測される。

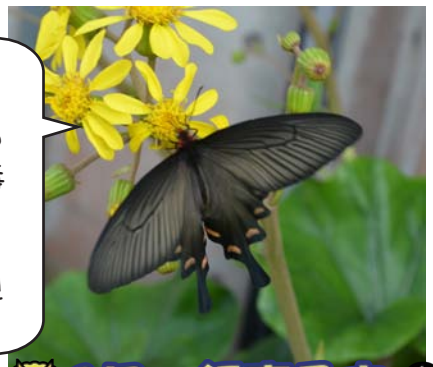
一般的に山に緑が増えると水が多く蓄えられると言われているが、段々畑があった地域に関しては全く逆の現象が現れているのではないかと考えたりもする。



そーぐわち（旧正月）め朝や わはみじ（若水）ん はみーや（拝み）すーしが
うぬわはみじや なまやなー カー（ハー）からや汲まんぐっとうい とうんが（台所）ぬ
水道みじ（水）どう ちかーとうんどー はめなー 世（ゆ）の中や あんしかわていやー！

今月の生きもの ジャコウアゲハ：アゲハチョウ科

吸蜜しながらごめんあそばせ。私ジャコウアゲハでございます。
黒地にオレンジの斑点、なかなかオシャレでしょ？私たちはリュウキュウマノズクサと言う草に卵を産み、幼虫はこの草を食べて育つ。ただ、この草は毒草で食べるとどんどん体に毒が蓄積され、その毒は一生体に残ります。だから、私を食べた鳥などの捕食者は中毒をおこして吐き出すの。一度痛い目にあった捕食者たちはもう私を食べたりしないんだって。ゆったり飛び回るのんびり屋な私たちがあんなによく見かけられるのにはわけがあるのがわかったかしら。



2月の行事予定

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1日（土）第40回沖縄一周市郡対抗駅伝競走大会 ～2日 | 15日（土）国頭地区ミナソク交歓会 ～16日 |
| 中学校県新人バスケ大会 ～2日 | おきなわ地域教育の日 |
| 2日（日）大宜味村教育の日 | 16日（日）家庭の日 |
| 小中一斉授業参観・弁当の日 | 21日（金）「体験の翼」報告会 少年を守る日 |
| 小きらめき（午前）・中くがに発表会（午後） | 幼稚園お別れ遠足（親子） |
| 3日（月）区長会 小中振替休日（授業参観） | 22日（土）中学校地区ヨックテニス大会 ～23日 |
| 5日（水）「体験の翼」事前学習会⑥ | 中学校地区バスケ1年生大会 ～23日 |
| 7日（金）「体験の翼」西会津町訪問 ～10日 | 23日（日）新天皇誕生日 |
| 8日（土）地区学推実践報告会 | 24日（月）振替休日 |
| 11日（火）建国記念日 | 27日（木）幼稚園入園説明会 定例教育委員会会議 |
| 12日（水）中学校入学説明会 | 29日（土）学び舎あじまあ |
| 13日（木）小学校新入生保護者説明会 | |

